

編集後記

山梨肺癌研究会会誌16巻1号をお届けします。

小澤先生の巻頭言、福岡先生の特別講演、そして一般演題のなかにも肺癌診療に関する変化が徐々におこりつつあるように感じられます。肺癌発生は喫煙率やたばこの消費量と直接関係すると思われませんが、多小なりとも税金が上がることで、幸か不幸か不況によりたばこの消費量が落ち込むことが肺癌を減少させるとの説も出始めております。またより早期に発見されるという流れは確実に進んでいるように思われます。

ところで外科の現場でも差し迫った問題が持ち上がっております。それは14年度から開始された手術数による点数の縛りで、年間50例（専門医がいれば30例）の件数がないと手術料30%カットとなる厳しいものです。正当な根拠がない、と反論がなされてはいますが、現実には従わざるを得ません。実際だれもが納得する尺度は手術の質や、5年生存率などの予後の質でしょう。山梨大学第二外科の非小細胞癌269例全例で5生率54.2%、10生率40.1%、IA 84.0%、IIIA 31.3%と早期例、進行例とも国立ガンセンターと同等以上です(15巻1号)が、14年度の症例数は30%カットぎりぎりでした。ただ、症例数がどうあれ今後も1例1例根気良く、手術の質と生存率向上に向けての努力を続けていくことがどの施設にも言えることではないでしょうか。

次回の研究会は県立中央病院 病理科の小山敏雄先生の世話人により、6月14日に山梨大学医学部において開催されます。多くの会員皆様のご参加をお待ちしております。

《事務局 吉井新平》

山梨肺癌研究会会誌 16巻1号

平成15年4月1日 発行

編集・発行 山梨肺癌研究会

事務局 〒409-3898

山梨県中巨摩郡玉穂町下河東 1110

山梨大学医学部 第二外科教室内

TEL 055-273-9682

印刷所 博友社印刷

〒400-0016 甲府市武田 2-1-2

TEL 055-253-0470

<http://www.yamanashi-med.ac.jp/~surg02/YSLC/index.htm>

e-mail:haigan@res.yamanashi-med.ac.jp

J-Medicine、医学中央雑誌、山梨大学図書館ホームページ 全巻全文収載